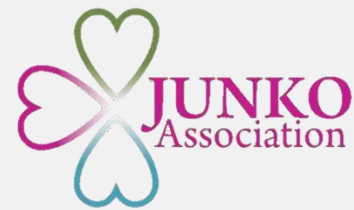


特定非営利活動法人 JUNKO Association

2020年度事業報告書

-JUNKO Association Annual Report 2020-
(2019/11~2020/10)



令和元年度神奈川県「かながわボランティア活動奨励賞」受賞
令和2年度「外務大臣表彰」受賞

About Our Association

JUNKO Associationの活動は、**ベトナム・ミャンマー・ビジネス**の3つのプロジェクトから成り立ちます。ベトナム・ミャンマープロジェクトは、例年、年に2回現地を訪問し、交流活動・教育支援活動を行っています。ビジネスプロジェクトは、ベトナム・ミャンマーで買い付けた雑貨を日本に持ち帰り、学園祭・イベントなどで販売し、日本にあるお店に卸しています。プロジェクトに加え、広報会員部という部署が日本国内における当団体の活動啓発事業を行っています。SNS サービスを用いての広報活動、ファンドレイジングを通じた資金獲得、助成金の獲得を行います。それらの利益は、ベトナム・ミャンマーの子どもたちの教育支援のために使われ、当団体の運営資金となります。今年度はコロナウイルス感染拡大の影響により例年のように活動できる状態ではありません。しかし、ベトナムとミャンマーの子ども達のために私たちができる事を模索し続けながら活動を行っております。

淳子さんの遺志を受け継いで25年が経ちました

ある1人の女性の想いから JUNKO Association は成立しました。当時、明治学院大学国際学部の3年生であった高橋淳子さんは、ゼミで東南アジアの経済発展について研究をしていました。ベトナムを訪れた彼女は現地の人々の優しさを感じると共に、途上国の貧しさに直面し、「ベトナムの貧しい子どもたちのために何か役に立ちたい」という強い想いを胸に帰国します。しかし、その数ヵ月後に不慮の交通事故に遭いこの世を去ることとなってしまいました。彼女の遺志が未永くベトナムの地に残り、ベトナムの子どもたちの笑顔に繋がることを願って、ご両親は淳子さんの積立金や集まった香典を提供し、ゼミの仲間たちは学校内で募金活動を行いました。それによって1995年ベトナム中部の都市ダナンに近い Quang Num省 Dien Phuoc村の小学校を改築しました。村人は感謝の意を込めて、この小学校を「JUNKO School」と名づけます。そしてJUNKO Associationの前身が、当時のゼミ生を中心に発足します。2005年に10周年を迎え、2007年11月からはNPO法人（特定非営利活動法人）へと変化を遂げました。今年度活動開始25周年を迎え、来年度にはミャンマーでの活動開始20周年を迎えます。当団体は、ベトナム・ミャンマー・ビジネスという3つのプロジェクトにおいて、「世界の恵まれない子どもたちのために」「学生による創造と実践の場」の2つの理念のもと、今後さらなる教育支援活動の充実を目指し、日々活動を行っています。



～25年の歴史とこれから～



峯村悠花

Haruka Minemura

専務理事

今年度、JUNKO Associationは25周年という節目の年を迎えました。淳子さんの思いから始まり、沢山の先輩方や関係者の方々の思いが繋がり25周年を今年度迎えられたことを誇りに思います。

2020年3月には、かながわボランティア奨励賞を受賞し来年度のミャンマースタディーツアーに向けて大きな1歩を踏み出しました。これは、ペンパルコミュニケーション企画をはじめ協力してくださっている高等学校の皆様、普段より活動を応援してくださっている戸塚に住む皆様のおかげです。

また、新型コロナウイルス感染拡大に伴い2020年度夏期学生短期派遣は中止を余儀なくされました。その状況の中でも、高橋淳子さんの母校であります吉祥女子高等学校にご協力いただき、ベトナムでは現地の学校教員の先生方と共にオンラインでディズカッションを実施したり、OBOGの皆様にご協力いただき子どもたちへの学用品寄附を実施しました。ビジネスプロジェクトでは両国雑貨のオンライン販売を開始する等新たな活動方法を模索してきました。

この機会に改めて、私たちの活動が現地に行くことだけではないこと、「現地の子どもたちにとって本当に必要な支援とは何か」を深く考える1年となりました。

これらの全ての活動も私たち学生だけでは、力不足なことが多いことを実感すると共に偉大な先輩方をはじめとして日頃応援してくださっている皆様に支えられていることを感じ、感謝する1年となりました。25年という歴史を経て、過去から多くを学び、現地の子どもたちのために出来ることを今まで以上に追求していけるよう学生一同邁進して参ります。

今後ともご指導ご鞭撻のほど宜しくお願いいたします。

今までに建設した学校校舎

1995年	ベトナム・Quang Nam省Dien Phuoc村JUNKO小学校（募金と備品）	ミャン
2000年	マー・Letpadan No.1 Education High School（中央校舎建設）	ミャンマー・
2008年	ThatDarmaZawTikaYonKyouun 僧院学校（校舎6教室）	ミャンマー・
2016年	Letpadan No.1 Education High School（図書館建設）	

JUNKO'S Vision and Mission

世界の恵まれない子どもたちのため



学生による創造と実践の場

私たちの使命と目指すこと

Vision

JUNKO Associationは、世界の子どもたちが人として十分に発達することで、彼ら自身が持つ潜在能力を将来において存分に発揮できる社会を目指す。また、日本などの先進諸国の人々が開発途上国の抱える問題や地球規模の問題を理解し、ともに生きることのできる公正な社会が実現されることを願う。

Mission

「開発途上国の恵まれない子どもたちがよりよい教育を受けられる環境の創造」

「開発途上国の子どもたち自身の学ぼうとする力や意欲を引き出し、子どもたちの視野を広げるような支援活動の実施」

「日本の人々に開発途上国の実情や抱える諸問題を伝え、異文化理解や南北間の相互依存に対する理解を促進する」

■ JUNKO定款に有る三つの目標と五つの事業行為とは

- (1) 国際協力の活動
- (2) 子どもの健全育成を図る活動
- (3) 前各号に掲げる活動を行う団体の運営又は活動に関する連絡、助言又は援助の活動

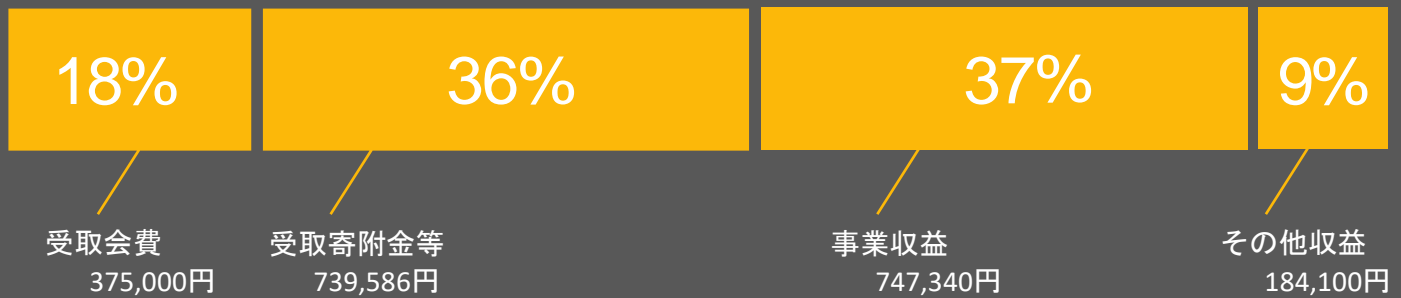
特定非営利活動に係る事業

- ①教育支援事業（教育助成金支給事業、授業向上のための支援事業）
- ②文化交流事業（日本や世界の文化を学ぶ草の根レベルの友好関係増進に寄与する事業）
- ③学生会員派遣事業（教育支援事業、文化交流事業を遂行するために現地へ学生会員を派遣する事業）
- ④国内啓発（開発教育）事業（日本の人々が国際協力、並びに開発協力に関心を深め考えるための、ホームページ、会報、出版、セミナーなどによる普及啓発事業）
- ⑤雑貨買い付け・国内販売事業（ベトナム、ミャンマーの民芸品買い付け、販売事業）

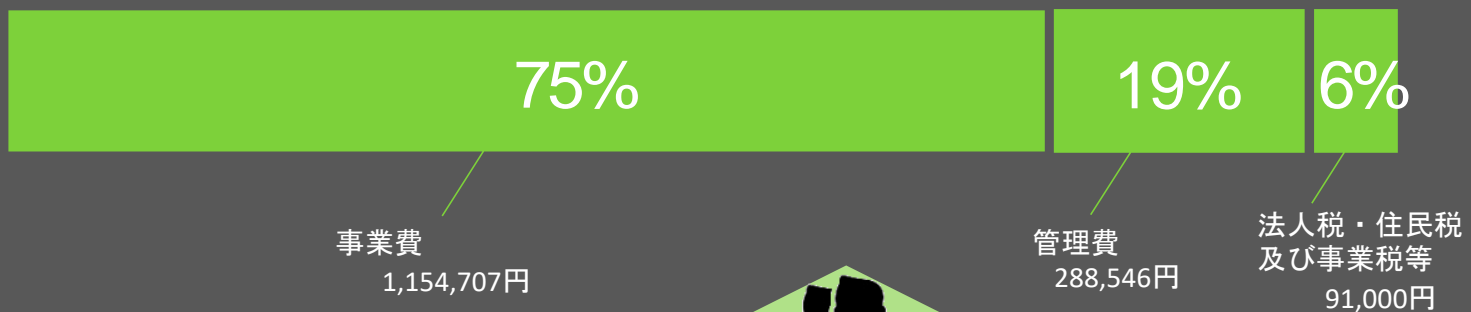
Record from 2019~2020

2020 年度の主な成果

INCOME 204万6,026 円



OUTGO 153万4,253 円



延べ交流参加児童数
(ベトナム、ミャンマー)
572

総事業数
3

交流参加生徒数
(日本)
200

総会員数
51



VIETNAM PROJECT

About VIETNAM PROJECT

ベトナムプロジェクトはJUNKO Association発足当時よりベトナムの子どもたちを対象に教育支援を続けており、今年度で25周年を迎えました。

25年の間、ベトナムの発展と共に当法人の支援内容も変容を遂げてきました。1997年、DienPhuoc村とダナン市にて助成金活動が始まり、以来、日本文化に触れる機会を提供する文化交流、子どもたちが自らの考えを表現し豊かな発想力を養う機会を提供するJUNKO Prizeへと支援を拡げ、子どもたちの学ぼうとする力や意欲を引き出すために尽力してきました。

2016年度には、DienPhuoc村の小学校就学率が100%、中学校の就学率が99.5%に達したことをきっかけに、ベトナムプロジェクトはHiepDuc県へ活動地を拡げ、「義務教育の環境を整備する」をミッションに掲げ、支援活動をスタートしました。HiepDuc県の中でも、当法人が支援対象としているPhuocGia村、SongTra村は山岳地帯で、また少数民族の居住地域であり、現在においても子どもたちが十分に教育を受けることが難しい現状があります。2016年以来、家庭訪問や地域の学校との協議を重ね、現地調査と支援の実施を継続し、子どもたちが学校で楽しく勉強できる環境づくりを目指して挑戦しています。



『25周年を迎えた今から見た今後の展望』

ベトナム事業部主任 阿部雄也

今年で、JUNKO AssociationがDien Phuoc村にあるJUNKO小学校で活動を開始して25年が経過しました。同地域ではベトナムの経済成長や同地域の発展に伴い助成金事業から教育支援事業、文化交流事業などの活動を行ってきました。また2016年には、新地域である同省Hiep Duc県にて活動を始めました。そして25周年を迎えた今年の夏、JUNKO小学校での高橋淳子さんの像の設立に伴い、これまで当団体に協力していただいた現地の人を招待したセレモニーを行う予定でした。ところが、コロナウイルス感染拡大の影響のため現地に行くことが出来ず、セレモニーは来年度へ延期となりました。また25周年事業以外でも両地域のミッションに



沿った企画を行うことが出来ず、初めはベトナム事業部のリーダーとして何をしたいのか全くわからない現状でした。しかしベトナムでは同年代の大学生である現地協力者ダナンジュンコや団体設立当初から協力していただいているPhuoc氏がいます。特にDien Phuocではインターネット環境も整っており、現地協力者を通じて現地の人々と直接的に関わることが出来ます。そのため、このような状況をマイナスに捉えるのではなく、今だからこそできる企画として、オンライン上にてベトナムと日本の高校生や英語の先生を繋ぐディスカッションを考案しました。日本では高橋淳子さんの母校であり現在も交流のある吉祥女子高等学校の生徒の方や教員の方にご協力をお願いしました。高校生のディスカッションはベトナムに台風が近づいていたため延期となりましたが、日越英語教員交流は実施することが出来ました。この交流を通じて、私は改めて当団体が25年間活動できていることに感謝しなければならぬと感じました。このような状況下でもオンライン上で新たな挑戦ができたことは、国内国外を含め多くの人々のおかげです。

25周年セレモニーが延期されたため感謝の気持ちを直接伝える機会は失ってしまいましたが、今後必ずセレモニーを開催し協力者の皆さんに直接感謝の気持ちを伝える機会を作りたいと強く感じる一年となりました。

MYANMAR PROJECT

About MYANMAR PROJECT

ミャンマープロジェクトは今年度で活動開始20周年を迎えました。高橋淳子さんが在学中に所属していたゼミの教授であり、当法人の初代理事長である江橋正彦の紹介によりミャンマーでの調査を行いました。活動協力者であるLetpadan Support Fund(以下SF)のTin MaungOo氏を筆頭に鎖国状態であったミャンマーに「外国の風を吹かせてほしい」という強い願いの元、2001年に活動を開始しました。大都市Yangonから車で4時間ほど離れたBago管区Letpadanタウンシップの小中高一貫校のNo.1 Basic Education High School(以下No.1 B.E.H.S)、男の子の職業訓練学校であるBoys Training School(以下BTS)、孤児院であるハンターイエ僧院孤児院(以下ハンターイエ)で活動を行っています。当法人が日本とミャンマーの架け橋となるべく、文化交流を中心にこれまで活動を始めてまいりました。日本の高校生とミャンマーの学生を手紙でつなぐペンパルコミュニケーション企画は現在も続いている交流であり、日本の交流校は8校に上ります。さらには衛生交流やミャンマーの教育事情にアプローチした、考える力を育む交流に加えて、2016年に完成した図書館には地域から視察を受けるなど日に日に存在感を増しています。また、これまで学習の支援を目的に行っていた助成金企画は、JUNKO日緬奨学金基金として発展してきました。



20周年という節目を迎えた中で、新型コロナウイルスという未曾有の事態により現地での活動が困難である状況が続いておりますが、今だからこそできることを模索しながらミャンマーの発展活動に尽力してまいります。

「前例のない状況下でどう動いていくか

ミャンマー事業部主
任 北島望

2020年という年度は新型コロナウイルス感染拡大によって例年の活動とは大きく異なるものとなりました。現地を訪れて子どもたちに直接交流活動を実施できないという状況は、JUNKOの活動を制限するものでした。現地の状況が把握できない、現地交流先の先生や子どもたちの声を聞くことができない、現地の課題解決のための直接的な活動が不可能となった、などアプローチしていく上で弊害が多く生じました。さらに、ミャンマーの交流先ではインターネット環境が十分に確立されていないために、大学の授業のようにリモートという形で活動するのはなかなか難しい状況です。前例のないこのような状況下でどのような方法で活動していくかは、試行錯誤の連続でした。しかし、このような状況になったからこそその課題が顕著に現れました。一番の課題は連絡手段の不十分さです。先ほども記述しましたが、現地交流先との連絡手段が不十分なために現地との状況や交流の実施が困難に陥っています。そのような場合において各交流先に連絡手段が確立していた場合、現地を訪れ直接的に課題解決を行えなくてもアプローチすることができます。さらに、年に2回現地へアプローチするという形を変えることもできると思います。25周年を迎えた今年度はこのような非常事態が起き変則的な動きとなってしまいましたが、今後も団体が続いていくなかで前例として残していきたいと考えています。



BUSINESS PROJECT

About BUSINESS PROJECT

ビジネスプロジェクトは1998年に発足し、教育支援のための資金を調達することに重点を置き、活動してきました。当法人の活動は大きく分けて2種類あります。1つ目は買付活動です。現地の市場を訪れ、事前に工場に発注するなどして質の高い商品を買付けることを目指しています。買付を行う際は入念に検品を行い、商品に欠陥がないことを確認したうえで購入しています。また、買付を行った当日中に再度検品を行い、安心してお客様にご購入いただける商品だけを日本に持ち帰っています。

2つ目は国内での販売活動です。例年、明治学院大学の学園祭や神奈川、東京で行われるイベントで出店させていただき、現地で購入した商品を販売しています。普段の活動では、他団体の方や地域の方々と交流する機会はありませんが、イベントでの販売活動ではお客様と直接コミュニケーションを取ることができ、商品をお渡しすることもできます。自分たちの経験をお話することで、JAの広報活動になり、現地と日本人との繋がりを作ることに重要な活動になっています。

またイベントの出店のみならず、複数の企業に私たちの商品を卸す活動もしています。現在は8つの店舗と契約を結んでいただいています。より幅の広いコミュニティの方々に商品を購入していただくことができ、更なる資金調達へと繋がっています。



「苦境の中で見出す、新しい可能性」

今年が良い意味でも悪い意味でも安定を辿ってきたこの数年の活動に変革を与えた年でした。コロナウイルスは、現地へ仕入れのために赴くことができない、協力店への納入量が減るなど、目に見える形で大きな弊害を起こしました。収入は大幅に落ち込み、立て直すには数年の月日が必要になります。しかし、今年一年のビジネスは、この苦境をいち早く理解し、対応し、そしてこの状況を逆手にとり新しい事業を推進する動きができたように思います。強制的に変革期を迎えたJUNKOですが、ビジネスはただ停滞することはせず、今後の発展への基盤をつくることができました。新ビジネスと名付けたあらゆるアイデアや考えを即時検討し、整備し、企画へと発展させる仕組みは、今後のビジネスの発展に大きく貢献すると感じています。新ビジネスからネット販売企画ができたという事例も含めて、どんな状況下にあっても前進できるビジネスの礎をこの機に構築したいと考えています。

ビジネス事業部主任
篠塚俊輔



VIETNAM PROJECT

「娯楽品提供交流」

KPA Kolong小学校とSong Tra村民族半寄宿舎中学校では、十分な娯楽品や体育・図工・音楽などの授業内容が揃っておらず、支援校における中退や欠席が後を立たない理由の一つとして娯楽品の不足、授業の質にあると考えました。そのため、ボールやパズルなどの娯楽品を学校へ寄附し、バレーボールやドッチボールなど普段授業では扱われない遊びを生徒たちと実施することで、通学意欲を高める交流を試みました。しかし新型コロナウイルス感染症拡大のため、日本人メンバーは渡航することなく現地協力者の大学生らの協力のもとに交流を実施しました。また交流後も新たな遊び方のもとに生徒たちがボールを有効活用できるよう、ボールの寄附に加えてバレーボールやドッチボールのルール表を作成し、学校への貼り出しを依頼しました。これにより、交流のアンケートにて生徒が新たな遊び方を習得したことがあった一方、バレーボールは馴染みがなく難しかったとの感想もありました。今後は学校との話し合いや学生による現地調査を行って、生徒が馴染みやすく持続性のある娯楽品と遊びのレクチャーを行っていきたいと思います。



交流校：KPA Kolong小学校・
Song Tra民族半寄宿舎中学校
交流参加人数：21人・40人

交流実施日：2020年10月30～31日

費用：約62,000円



MYANMAR PROJECT

「奨学金支給」

ミャンマーでは2019年9月にJUNKOが300万円、地元有志が約150万円を出して、JUNKO Japan-Myanmar Scholarship Foundationを成立させ、2020年1月3日ミャンマー政府から認定された奨学金基金となりました。この銀行利子により奨学金を支給し、あわせて教育勸奨の表彰を行います。2020年10月末現在ミャンマーの学校は新型コロナの蔓延のため学校が授業できない状態にあり、支給はできていないことは残念ですが、学校が再び動くとともに選考委員会を行っていきます。理事は地元の人3人、校長1人、JUNKOから3名で構成され、選考委員会は学校の先生と地元の人で構成されます。



「学校図書館事業」

2016年に私たちはLetpadan BEHS(1)に独立棟としての図書館を建設しました。

この図書館は司書の先生はいませんでしたが2019年度より司書教諭が置かれ、予算もつけられるほどに成長しました。全生徒が週に一時間図書館で勉強しています。

私たちは、図書館設備や図書の寄贈を行うだけでなく、図書委員の設置や図書修理技術の指導、貸出システムの改良などのセミナーを実施してきました。今年は「日本の図書館の生徒を呼び込む工夫」をテーマに実施しました



交流校：No.1 Basic Education High School
交流参加人数：13人

交流実施日：2020年2月3日

費用：約10,000円



交流校：No.1 Basic Education High School

交流参加人数：24人

交流実施日：2020年2月4日

費用：約9,000円

「学習意欲向上のための交流」

」
経済的に困難なために十分な勉強環境が得られない家庭の子どもたちを対象に、学習意欲向上のための交流を実施しました。

外国の文化に触れることによって子どもたちの興味を引き出し、子どもたち自身の学ぼうとする力を育みます。実際に、折紙・書道・着付け等の文化体験を行いました。

「生活環境改善教育の実施」

」
これまでハンターイエ僧院孤児院では、長期的に衛生面の課題を解決するために交流を実施してきました。今年度春期学生短期派遣では、これまでの交流から子どもたちに伝えてきた衛生に関する知識の復習の機会としました。交流を踏まえ、子どもたちはこれまで伝えてきたことを生活の中で実践しており、習慣化されていることが見て取ることができました。一方で、ゴミの見分け方や手を洗うタイミングなど日本とミャンマー間の衛生に対する認識の差異が顕著に現れていることから、今後は生徒だけでなく先生や僧侶に対しても衛生教育を実施する機会を設け、課題解決を図っていく予定です。



交流校：Hanther Aye僧院孤児院

交流参加人数：54人

交流実施日：2020年2月2日

費用：約3,000円

MYANMAR PROJECT

「創造的思考教育」

No.1B.E.H.S.では主体性を育むことを目指しており、その一助として2017年度夏期短期派遣時より「主体性を育む」交流を実施しています。生徒の主体性を育むために、過去の交流では、ディベート大会の開催等を行ってきました。今年度は、考える力の一つである思考を深める力を鍛える交流を行いました。時間を守るというルールに関する日常場面から、その状況や背景について考える交流を行いました。



交流校：
No.1 Basic Education High School
交流参加人数：52人
交流実施日：2002年2月4日
費用：約2,000円



「思考力を鍛える交流」

目標へたどり着くための方法を考える力である発想力を鍛え、理想の未来を実現するための方法を考えようこと・

問題解決能力や目標達成のための発想力を鍛えることを目的に、生徒自身で考える交流を行いました。生徒が主体的、積極的に自分の将来の夢について考え、人前で発表する交流を行いました。

交流校：
That Dahma Zaw Tika Yon Kyaun僧院孤児院

交流参加人数：33人

交流実施日：2020年2月7日

費用：なし

文化交流事業の部

VIETNAM PROJECT

「オンラインスタディーツア ー」

現地から需要の高い日本文化紹介や日本文化交流、日越英語教員交流などをzoomを用いて行いました。JUNKOメンバーが音声の付いたパワーポイントを作成し、現地協力者が現地校にてそれを用いて交流を行いました。

中でも日越英語教員交流に関しては、2019年夏期学生短期派遣（以下19夏短）に行ったJUNKO小学校とのグリーンティングにおいて校長先生から「日本の学校の様子を知りたい」という声が上がっていました。

しかし時間の限られているグリーンティングでは先生に対して日本の学校に関する共有が難しい現状にありました。そこで2020年9月、コロナウイルス感染拡大の影響のため現地に行けないことを利用し、オンライン上で日本の先生とベトナムの先生のディスカッションを実施しました。

日本の先生は高橋淳子さんの母校であり、現在も交流のある吉祥女子高等学校の教員の方2名に参加していただきました。また双方が生の声でディスカッションを行うために英語教員に対象を絞り英語で実施しました。

ディスカッションでは、一日のスケジュール、英語を教えている際に気をつけているポイント、また子どもたちに将来どのようになって欲しいかを話し合いました。両国の先生方が自身の生徒たちに対して将来留学に行つて欲しいと考えており、相違点だけではなく共通点も発見することができたディスカッションとなりました。

来年度も現地に訪問することができるのか不透明な状況ではありますが、オンラインを通じて新たにできた関係を今後より一層深めていきたいと考えています。



交流校：
JUNKO小学校・ Nguyen Thanh Y 小学校・
Tran Quy CAP中学校・ Hoang Dieu 高校

交流参加人数：
35人・ 35人・ 21人・ 30人

交流実施日
2020年10月20日・ 10月21日

支援額：31,000



MYANMAR PROJECT

「日本文化体験交流 」

日本文化を学ぶことを通して視野が拡大することを目的として交流を行いました。日本文化を学ぶ際には、縁日の文化的背景等の紹介を行いました。

その後、実際に射的・輪投げ・ヨーヨーすくい等を通して日本の縁日体験を行いました。

交流校：
Boys Training School（孤児院）

交流参加人数：14人

交流実施日：2020年2月1日

支援額：約2,000円

MYANMAR PROJECT

「ペンパルコミュニケーション
企画」

ペンパルコミュニケーション企画では、年に2回の
ミャンマーと日本の高校生の手紙交換や文化体験交流を
通じてお互いの文化を紹介しています。

また、「ペンパル通信」と題したそれぞれの文化を紹介
する冊子を生徒たちに配布し、両国の文化や学校生活に
ついてを紹介しています。

ミャンマーでは、2月に日本の運動会を体験してもら
う交流を実施しました。現在、渡航の目処は立っておりま
せんが、横浜の風景を撮影した動画などを作成し現地に送
るなど、動画を通じて日本の文化を紹介しています。

日本では計6校の横浜の高等学校と交流を行っています。
今年度はミャンマーの教育制度について紹介を行いました。
また、ミャンマーの文化や基本情報に関するクイズを作成
し、ミャンマーという国への理解を促進しました。



交流校：No.1 Basic Education High School 日本
の高校4校
(川崎市立橋高等学校/横浜市立横浜商業高等学校/
横浜市立戸塚高等学校/横浜市立みなと総合高等学校
/多摩大学附属聖ヶ丘中学校・高等学校
/私立横浜隼人高等学校)

交流参加人数：200人・200人

交流実施日：2020年2月1日

支援額：約8,000円



2020年度授賞奨励賞

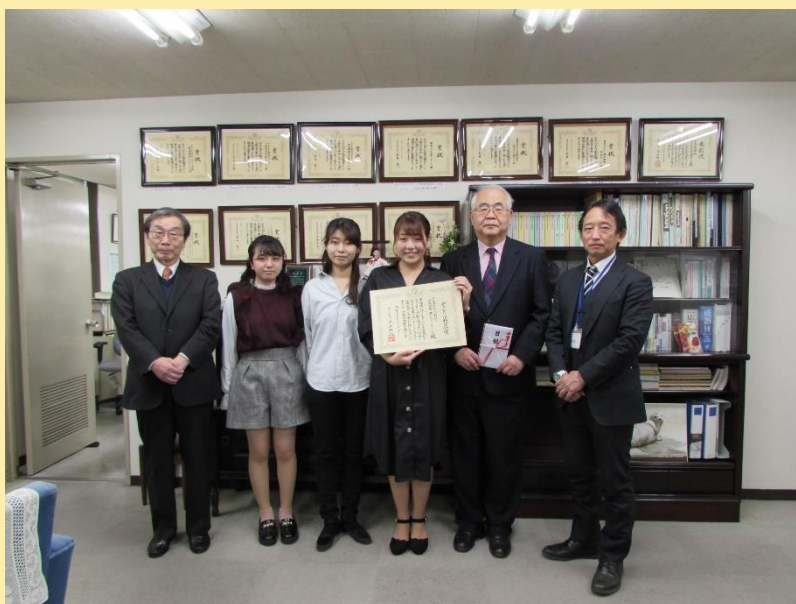
【かながわボランティア活動奨励賞】

神奈川県「かながわボランティア活動推進基金21」より活動奨励賞を副賞30万円をいただきました。この賞は、地域社会への貢献度が高い活動に自主的に取り組んでいる団体・個人に贈られます。

今回は23件の推薦の中から選ばれた5団体の一つとして、6つの神奈川県内の高等学校とミャンマーの高校生徒をつなぐペンパル活動や地域との交流活動、そして横浜市明治学院大学内での活動が評価されました。

副賞の30万円はミャンマーの学校の先生達を招待して日本の教育を視察する、第三回スタディーツアーの資金の一部にあてます。

またタウンニュース戸塚版4月2日号(部数5万部)には一面トップで掲載されました。



【外務大臣表彰受賞】

「令和2年度外務大臣表彰」を受賞しました。

これは在ベトナム日本大使館の推薦によるものです。

受賞理由は「25年間に渡りジュンコ小学校を含む小中高及び大学、少数民族の青少年に対し、文化交流及び支援事業を実施し、教育環境の改善と草の根レベルの日越教育交流に継続的に貢献したことです、

また、日本国内での民芸品販売事業等を通じて、ベトナムに対する持続的な教育支援の維持に尽力し、ミャンマーでも活動しているという理由です。

本来は7月の授賞式でしたが今年はコロナの影響で授賞式が遅れました。

BUSINESS PROJECT

「協力店企画」

今年度はコロナウィルスによる影響を大きく受け、今後の課題も顕著になった年でありました。何年にも渡り受け継いできた企画でありましたが、長年続けてきたことからの安心感による各店舗への商品の回転率や顧客層などの分析の怠り、それに伴った適切な新商品の提案不足がコロナ下での対応により露呈しました。今年度の下半期から来年度にかけて、継続的な新商品の提案と、動向の分析、この二点の充実を目指して活動していきます。

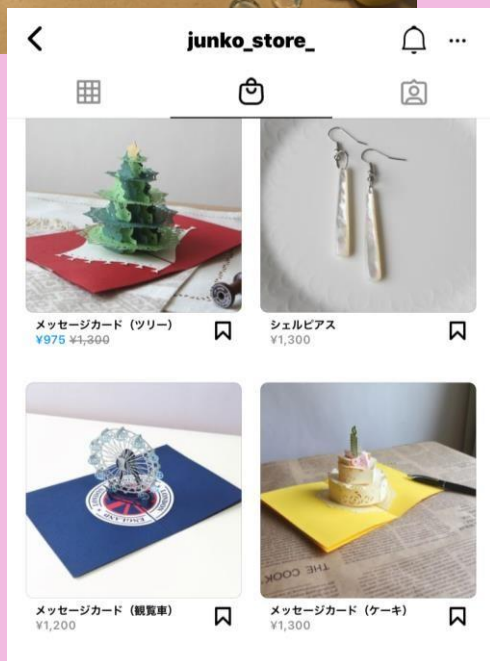


「ネット販売企画」

新ビジネスから検討され、主にコロナで出店できなくなった補填として今年度の8月よりネット販売の運営を開始しました。しかし、設立から今年度締めまでに売上は約一万円とイベント企画の代打としてはまだまだ心許ない状態です。今後の方針としては主に商品を買っていただくまでの行程を確立することとしています。具体的な内容としては、まずはHP、SNS等Web媒体を活用した広報を通して当団体のオンラインストアを知ってもらい、その後も継続的なアプローチを続けていきます。そして顧客にあった商品やサービスを提供し、リピーターの獲得に向けたサービスを立案、実行していきます。サイトのレイアウト、各SNSの活用発信、広報企画での発信などを積極的に行う年度になるように準備を行っていきます。

。

<https://junkoassociation.stores.jp/>



BUSINESS PROJECT

「買い付け活動」

日本で売る雑貨をベトナムとミャンマー
のお店で学生が買い付けを行いました。



ベトナム社会主義共和国にて
日程：2019年2月28日～3月21日
参加人数：2人

ミャンマー連邦にて 2019
年1月29日～2月15日 参加
人数：2人



事業の成果

【収益】

イベント・小売販売：201,760円

卸売販売：501,580円

委託販売：35,850円

収益計：747,340円

Record from 2019~2020

雑貨販売・国内販売事業の2020年度実績

ベトナム・ミャンマーで買い付けた商品をお買い求めできる協力店の情報

CLASKA

東京目黒区中央町1-3-18



デザインフィル

東京都渋谷区恵比寿1-19-19



ぽれやあれ

東京都杉並区高円寺南3-44-6



パパテオ

JR大船駅から約15分



※個人宅のため、
詳細はホームページを
ご覧ください。

RAKU

神奈川県鎌倉市浄明寺2-2-2



Point Weather

神奈川県横浜市港北区綱島西
1-14-18



カフェゆっくり堂

横浜市戸塚区矢部町125善了寺内



JOBIA

神奈川県横浜市
西区北幸1丁目
11-11
NOF横浜西口ビル



詳細はホームページ・SNSをご覧ください

<https://www.junko-association.org>

VIETNAM PROJECT

「衛生交流」

2020年度の春に実施した現地の子ども達との唯一の交流は、ダナンの孤児院であるFamily No.4における手洗い交流です。当孤児院には、石鹼が十分に整備されておらず、消毒液やマスクは一切ありませんでした。そのため新型コロナウイルスの感染可能性が高まっていると考え、石鹼や消毒液、マスクの寄附を兼ねて正しい手の洗い方やサージカルマスクの着用法、手指の消毒法などのレクチャーを実施しました。手洗いに関するレクチャーは、ユニセフのダンス動画をもとに実施し、多くの子どもが楽しみながら正しい手洗いの方法を習得することができました。これからの交流においても、新型コロナウイルス流行が終息するまで衛生関係の交流を行っていくことを視野に入れて、活動を行っていきます。



VIETNAM PROJECT

「各交流校とのグリーティング」

ベトナムの子ども達との交流以外では、交流校におけるグリーティングとHiep Ducの村人5組へ家庭訪問を実施しました。グリーティングでは毎短期行っている、生徒数や中退者数などの学校の基礎情報の調査や、次年度実施企画のための話し合いを行いました。Dien Phuocにおいては日本語交流導入や体育館改修工事の提案、Hiep Ducにおいては娯楽品増加による通学意欲向上の交流実施の要望を頂きました。今後は各学校との話し合い結果をもとに、活動内容を考え支援を行ってまいります。

VIETNAM PROJECT

「在越日本大使館と株式会社ミズノによる

JUNKO小学校訪問」

JUNKO 小学校では、在越日本大使館による長年の日越友好関係を讃えた表彰と株式会社ミズノによるサッカーボールの寄附が実施されました。梅田大使訪問により、JUNKO小学校への日本語教師の派遣や日本語教員の研修の提案などがなされました。これによりJUNKO小学校と在越日本大使館、株式会社ミズノそしてJUNKO Associationとの新たな関係性が構築されました。



ごあいさつ

JUNKO Associationの25年

理事長 松岡 良樹

JUNKO Associationは1995年に始まりました。故高橋淳子さんの遺志を生かそうと高橋廣太郎さんより渡された生命保険金出建てられたベトナムの学校は村人によりJUNKO School と名づけられました。この学校を支援する団体を明治学院大学の学生たちが立ち上げたのが当会の始まりです。その後、2000年からはミャンマーでも活動を開始し、NPO法人格を取得して現在に至ります。

この間ベトナムは特に発展し、教育体制も整ってきました。JUNKO小学校も国家標準小学校から更には世界的な小学校の水準とされる国家第二水準標準小学校に発展しました。しかし、高橋淳子さんの子どもたちへの思いと学校の成立の話は、昨年にはベトナムのテレビ番組としてMTVで放映されました。25年前の一つの行為がクアンナム省やダナンの人々の心にいまでも根付いているのです。

ミャンマーでは2000年より交流を始め、2002年にはレパダン第一小中高の校舎建築、2008年には台風ナルギスで被害を受けたタンリン地区の僧院学校の校舎建築を、そして2016年には独立した図書館棟をレパダンに建てました。学生たちは図書委員制度や図書野修理工法、貸出システムや図書館広報のワークショップを行い、学校も全校生徒が週に一時間勉強することとさせたので、2019年は司書教諭が配置され国家の予算もつきました。更には、当会が300万円地元有志先生たちが150万円でJUNKO日緬奨学金基金を設立し、2020年1月3日にはミャンマー政府認定の奨学金基金となりました。

その時その時の学生には見えにくいのですが、小さな積み重ねがあり、お互いの関係が育って行っています。



～受賞 報道略歴～

2000

フジテレビ系西日本放送にてJUNKO Schoolのドキュメンタリー放送

2001

シチズン・オブザ・イヤー2000 受賞
キワニスインターナショナル青少年教育賞 受賞

2006

ケーブルテレビ「Area4」にて紹介を受ける

2008

第8回ソニーマーケティング学生ボランティアファンド 助成

2009

財団法人学生サポートセンター国際協力団体 助成
東京キワニスクラブ奉仕賞 受賞
第9回ソニーマーケティング学生ボランティアファンド 助成

2010

第55回イーバーツリユースPC寄贈プログラム受賞

2012

第11回 ソニーマーケティング学生ボランティアファンド 助成

2015

ベトナム全国紙「oi Tre」に掲載
JUNKO School20周年式典の様子が掲載される

2016

よこはま国際協力賞 受賞

2017

日本財団ボランティアセンターGakuvo助成
エフエム戸塚「戸塚の力」初出演

2018

2018明治学院大学 ボランティアファンド学生チャレンジ受賞

2019

2019明治学院大学 ボランティアファンド学生チャレンジ賞
受賞 ミャンマー全国紙「The Mirror」に掲載
Bago管区Letpadan市での活動の様子が掲載される

2020

ベトナムのテレビ放送「TV4」に取材を受ける
JUNKO Schoolの歴史と交流活動の様子が放映される
かながわボランティア活動奨励賞 受賞
戸塚区タウンニュース（2020年4月2日号）に掲載される
令和二年度外務大臣表彰 受賞

JUNKOを支えてくださった団体 企業の皆様

交流学校名

川崎市立橘高等学校/私立吉祥女子中学校・高等学校/ 私立横浜隼人高等学校/
私立山手学院高等学校 / 私立森村学園中等部・高等部 / 多摩大学付属聖ヶ丘中学校・高等学校 / 横浜市立横浜商業高等学校/ 横浜市立戸塚高等学校/ 横浜市立みなと総合高等学校/ 倉田小学校

支援団体・個人

かながわボランティア活動推進基金21/社会法人東京キワニスクラブ/任意団体横浜アクションプランナー / NPO法人 杉並文化村 / NPO法人 杉並子ども未来委員会 / 一般社団法人 アジア婦人友好会 / NPO法人もったないジャパン / 高野道郎メモリアルプロジェクト/ 株式会社 JOBIA / 荒井枝美税理士事務所/明治学院大学ボランティアセンター / 明治学院大学校友会 / 明治学院大学学生部 / 高橋廣太郎 / 小林きみよ/三浦真知子/ JUNKO Association学生メンバー保証人・同OBOG

販売協力

グランフォーレ戸塚管理組合 / 中華街パーキング協同組合 / 株式会社クラスカ / パパテオ / ぽれやあれ / RAKU / 株式会社デザインフィル / 株式会社 JOBIA / Point Weather / カフェゆっくり堂 / 社会福祉法人日本国際社会事業団(ISSJ)

～ベトナム社会主義共和国～

▼Quang Nam省

Quang Nam省教育事務所(DOET) / Quang Nam省奨学会(LEA) /
Quang Nam省 Dien Ban郡 Dien Phuoc社 / Dien Ban郡奨学会(LEA) /
Dien Phuoc村 People Committee / JUNKO小学校 / Nguyen Thanh Y小学校 /
Tran Quy CAP中学校/ Hoang Dieu高等学校

▼Quang Nam省 Hiep Duc県 Phuoc Gia社

Phuoc Gia 村 People Committee / KPA Kolong小学校本校 / KPA Kolong小学校分校1

▼Quang Nam省Hiep Duc県 Song Tra社

Song Tra社民族半寄宿舎中学校

～ミャンマー連邦共和国～

▼YANGON管区 Thanlyn Township

That Dahma Zaw Tika Kyaun 僧院学校

▼Bago管区

Letpadan Township Letpadan No.1 Basic Education High School / Boys Training School /
Hanther Aye 僧院 孤児院

▼その他

Yangon University of Foreign Language 日本語学科/ ミャンマー連邦共和国教育省/ Bago管区教育事務所

▼協力者

Dr.They Lwin (Myanmar-Japan Society事務局長)

募金設置協力店

庄や戸塚西口店

現地協力者

Nguyen Van Phuoc 氏(ベトナム)
Danang Youth Volunteer Group(ベトナム)
U Tin Maung Oo 氏 (ミャンマー)
Letpadan Support Fund(ミャンマー)
JUNKO Japan-Myanmar Scholarship Foundation
(ミャンマー)



Nguyen Van Phuoc 氏



U Tin Maung Oo 氏

理事・監事・顧問

理事長：松岡良樹
副理事長：竹尾茂樹、小島英太郎
専務理事：峯村悠花
理事：岸雅大、黒滝颯一郎、渡邊晃仁
学生理事：佐山聡、本橋文乃
監事：東樹康雅、浜田憲和
顧問：江橋正彦・U Tin Maung Oo

活 動 計 算 書

特定非営利活動法人
JUNKO Association

2019年11月1日から2020年10月31日まで

(単位：円)

科 目	金 額	金 額	金 額
I 経常収益			
1. 受取会費			
正会員及び賛助会員受取会費		375,000	
2. 受取寄付金			
受取寄附金		439,586	
3. 受取助成金等			
受取助成金		300,000	
4. 事業収益			
(1) 教育支援・文化交流・派遣事業	0		
(2) 国内啓発事業	0		
(3) 雑貨買付・国内販売事業	747,340	747,340	
5. その他収益			
(1) 受取利息	18		
(2) 為替差益	0		
(2) 雑収益	184,082	184,100	
経常収益計			2,046,026
II 経常費用			
1. 事業費			
(1) 人件費			
人件費	0		
(2) その他経費			
売上原価	338,729		
諸謝金	192,958		
通信運搬費	40,720		
印刷製本費	15,866		
旅費交通費	68,981		
消耗品費	9,504		
地代家賃	184,845		
出店費	200		
会場費	3,194		
支払寄付金	209,357		
現地交流費	64,658		
租税公課	2		
支払手数料	2,278		
為替差損	23,415		
その他経費計	1,154,707		
事業費計		1,154,707	
2. 管理費			
(1) 人件費			
人件費	0		
(2) その他経費			
通信運搬費	1,260		
会場費	3,670		
諸会費	60,000		
支払報酬料	220,000		
支払手数料	3,616		
その他経費計	288,546		
管理費計		288,546	
経常費用計			1,443,253
税引前当期正味財産増減額			602,773
法人税・住民税及び事業税			91,000
当期正味財産増減額			511,773
前期繰越正味財産			4,175,049
次期繰越正味財産			4,686,822

貸借対照表

2020年10月31日現在

特定非営利活動法人
JUNKO Association

(単位：円)

科 目	金 額	
I 資産の部		
1. 流動資産		
現金預金	3,699,527	
売掛金	8,150	
商品	357,940	
貯蔵品	131,155	
前払費用	21,165	
流動資産合計		4,217,937
2. 投資その他の資産		
差入保証金	12,000	
預託金	1,000,000	
投資その他の資産合計		1,012,000
資産合計		5,229,937
II 負債の部		
1. 流動負債		
買掛金	107,660	
未払金	191,371	
未払法人税等	91,000	
前受金	15,000	
預り金	138,084	
流動負債合計		543,115
負債合計		543,115
III 正味財産の部		
前期繰越正味財産		4,175,049
当期正味財産増減額		511,773
正味財産合計		4,686,822
負債及び正味財産合計		5,229,937

財務諸表の注記

1. 重要な会計方針

財務諸表の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2017年12月12日最終改正 NPO会計基準協議会）によっています。

(1) 棚卸資産の評価

商品は原価法により評価しています。

貯蔵品（受け入れ寄付物品等）は時価により評価しています。

2. 事業別損益の状況

事業別損益の状況は以下の通りです。

(単位：円)

科 目	教育支援・文化交流・学生会員派遣	国内啓発 (開発教育)	雑貨買付・国内販売	事業部門計	管理部門	合 計
I 経常収益						
1 受取会費						
正会員・学生		285,000		285,000		285,000
正会員・社会人		60,000		60,000		60,000
賛助会員		30,000		30,000		30,000
2 受取寄付金						
受取寄附金		439,586		439,586		439,586
3 受取助成金						
受取助成金		300,000		300,000		300,000
4 事業収益						
イベント・小売販売			201,760	201,760		201,760
卸売販売			501,580	501,580		501,580
委託販売			35,850	35,850		35,850
ネット販売			8,150	8,150		8,150
5 その他収益						
受取利息			18	18		18
雑収益		134,082	50,000	184,082		184,082
経常収益計	0	1,248,668	797,358	2,046,026	0	2,046,026
II 経常費用						
売上原価			338,729	338,729		338,729
諸謝金	192,958			192,958		192,958
旅費交通費	58,283		10,698	68,981		68,981
通信運搬費		39,060	1,660	40,720	1,260	41,980
印刷製本費	8,866	7,000		15,866		15,866
消耗品費		5,214	4,290	9,504		9,504
地代家賃			184,845	184,845		184,845
出店費			200	200		200
会場費			3,194	3,194	3,670	6,864
支払助成金				0		0
支払寄附金	209,357			209,357		209,357
現地交流費	64,658			64,658		64,658
支払手数料		825	1,453	2,278	3,616	5,894
租税公課			2	2		2
諸会費				0	60,000	60,000
支払報酬料				0	220,000	220,000
為替差損	11,707		11,708	23,415		23,415
経常費用計	545,829	52,099	556,779	1,154,707	288,546	1,443,253
当期経常増減額	△ 545,829	1,196,569	240,579	891,319	△ 288,546	602,773
税引前当期正味財産増減額	△ 545,829	1,196,569	240,579	891,319	△ 288,546	602,773
法人税・住民税及び事業税			91,000	91,000		91,000
当期正味財産増減額	△ 545,829	1,196,569	149,579	800,319	△ 288,546	511,773

定款上の「教育支援事業」「文化交流事業」「学生会員派遣事業」は、日本国外において事業活動を行うことから、これらをまとめて「教育支援・文化交流・学生会員派遣」として表示しています。

財 産 目 録

2020年10月31日現在

特定非営利活動法人

JUNKO Association

(単位：円)

科 目	金 額		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金預金			
手許現金 (アメリカドル) USD3,072,000 (為替レート104.60円)	321,331		
手許現金 (ベトナムドン) VND5,470,800 (為替レート0.0045円)	24,618		
手許現金 (ミャンマーチャット) MMK418,148 (為替レート0.08115円)	33,932		
普通預金 三菱UFJ銀行戸塚支店	2,639,665		
普通預金 三菱UFJ銀行戸塚支店 (緊急時積立金口座)	134,000		
郵便振替口座 ゆうちょ銀行 (たかじゅん基金)	545,977		
売掛金			
Stores売上(ネット販売)	8,150		
商品			
食器等 (倉庫管理品)	112,627		
小物類 (倉庫管理品)	43,303		
布製品 (倉庫管理品)	33,731		
アクセサリ (倉庫管理品)	20,588		
メッセージカード (倉庫管理品)	147,691		
貯藏品			
SR会員特典企画購入品	1,840		
寄付物品 (子供服150着他)	129,315		
前払費用			
前払家賃 倉庫賃借料11月分	21,165		
流動資産合計		4,217,937	
2 投資その他の資産			
差入保証金			
倉庫賃借契約	12,000		
預託金			
JUNKO Japan-Myanmar Scholarship Foundation	1,000,000		
投資その他の資産合計		1,012,000	
資産合計			5,229,937
II 負債の部			
1 流動負債			
買掛金			
Shell Spoon他購入代金 MMK957,000 (為替レート=0.08115円)	77,660		
現地買付手数料	30,000		
未払金			
ベトナム現地文化交流費用 USD1,166 (為替レート=104.60円)	121,963		
ベトナム教科書寄付代金	69,000		
Stores売上(ネット販売) 決済手数料	408		
未払法人税等			
法人税、住民税及び事業税	91,000		
前受金			
2021年度 正会員会費 (3名)	15,000		
預り金			
春・夏短期派遣時の緊急時用積立金	134,000		
源泉所得税	4,084		
流動負債合計		543,115	
負債合計			543,115
正味財産			4,686,822

監査報告書

2020年12月9日

特定非営利活動法人 JUNKO Association

理事長 松岡 良樹殿

監事 東樹 康雅

監事 浜田 憲和



私達は、特定非営利活動促進法第18条の規定に基づき、特定非営利活動法人 JUNKO Association no2020年度(2019年11月1日から2020年10月31日まで)の事業報告書および財務諸表(活動計算書および貸借対照表、財産目録)について監査を行った。

私達は、理事の職務執行の状況に関する監査にあたっては、理事会議事録や総会議事録等を参照し必要な質問を行った。また、経営の状況に関する監査にあたっては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問などの合理的な保証を得るための手段を行った。

監査の結果、法人の業務は法令及び定款に基づき適正に執行され、会計処理は一般に公正妥当と認められる会計原則に則って適正に処理されているものと認められた。

よって私達は、上記の企業報告書及び財務諸表が、特定非営利活動法人 JUNKO Association の2020年10月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況、経営の状況及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認められる。

以上

支援のお願い

ベトナムとミャンマーの子ども達の教育環境改善のために、ご協力をお願い致します。

ご寄付頂いた資金はすべて子ども達のために使わせていただきます。

◇ 資金で支援する

社会人会員:5,000円 賛

助会員:5,000円以上

◇ 資金で支援する

ベトナムとミャンマーでの教育支援活動、そしてそれを支えるJUNKO Associationの活動に使わせて頂きます。

【郵便振替】

トクヒ) ジュンコアソシエーション

口座番号 : 00230-9-8995

【銀行振込】

ゆうちょ銀行 029支店 当座 : 0008995

トクヒ) ジュンコアソシエーション

※ お振込みの際に手数料がかかりますのでご了承ください。

※ ご寄附の際にはお名前をご明記ください。

◇ モノで支援する

当団体では写真集、ファッション誌、漫画などの図書や使わなくなった文房具などのご寄附をお受けしています。

詳細は団体ホームページをご覧ください。

特定非営利活動法人 JUNKOAssociation

●法人事務所

〒248-0014

神奈川県鎌倉市由比浜3-7-3

TEL:0467-23-6660

MAIL:junko.association.sr@gmail.com

●学生連絡先

〒244-8539

神奈川県横浜市戸塚区上倉田町1518

明治学院大学 学生部 気付

公認団体 明治学院大学JUNKO Association

編集責任者

松岡良樹



JUNKO Association

検索

